

With

利用者と共に

職員と共に

地域と共に

vol.33

2015.6/1

発行所 障害者支援施設 高森荘

〒399-3101 長野県下伊那郡高森町山吹4473-1
TEL.0265-35-6811 FAX.0265-35-6812
E-mail:takamoriso@bj.wakwak.com

発行者 高森荘施設長 入野友宏

高森荘からの情報発信 ウィズ



ある日の高森荘



美しい新緑に囲まれ、生命の息吹を感じる季節になってきました。

まだまだ朝晩の寒暖の差が激しいですが、高森荘では早くも衣替えが始まっています。

1人ひとりの個性があり、中には半袖の人もいれば長袖を何枚も重ね着している人もいます。

それでも明るい色の服装がちらほらと目立ってきており、施設内からも夏の到来を予感します。

夏本番を迎える前に、みんなで中庭に花や野菜を植える計画をしています。もっと暑くなるころには、きっと利用者さん1人ひとりと同じように個性豊かで綺麗な花や実をつけている事でしょう。

去年作ったミニトマトやゴーヤのような野菜は、食べる事が出来るので特に楽しみにしています。

これからの成長に期待を寄せつつ、利用者、職員ともに楽しみながら見守っていきたく感じています。

平成26年度高森荘事業報告

○夜勤2名体制の確立

試行期間をへて6月より本格導入、あわせて生活支援員の勤務体制の見直しや検討を行う。夜勤2名体制構築のため生活支援員の増員を図ったが、一人月4〜5回の夜勤回数。改善するには更に増員が必要、そのためには運営費の増収、利用率の向上が必須条件となる。

○入浴サービスの検討

これまで男女合同で週2日(火・金)実施してきた入浴日を、女性(月・木)+男性(火・金)の週4回に変更する。

○医療系サービスの増員↓看護師5名体制

医療系サービスの増大と今後の状況を鑑み増員、7月からオンコール(緊急時携帯所持)と休日出勤の体制を確立。急変時の対応策として事業所独自の「事前指示書」を作成、利用者ご家族(保護者)に延命処置等の可否について確認作業を進める。

○リネン関係の業務委託

感染症(皮膚疾患)対策+介護業務見直し+ラニングコスト削減を目的にリネン類(個人衣類を含む)の業務委託の検討を図る。試行期間を設け9月より本格導入する。

○生活支援員の喀痰吸引等の研修開始

6月より看護師2名を講師として第3号研修を開始、生活支援員の資格取得を目指す。

○特定相談支援事業(計画相談)の実施について

特定相談支援事業所の指定を受け10月から事業を開始する。

○各種行事の見直し

伝統行事であった夏祭りは利用者の高齢・重度化に配慮し、昼間開催の「秋祭り」に変更。新たな企画として、飲食を伴わない短時間ドライブ「ドライブレク」を企画する。希望される方を対象に年間を通じて実践する。

○リスクマネジメントの確立を目指す

事故ヒヤリハット報告の徹底、速やかなカンファレンスと再発防止に力を入れる。感染症・褥瘡・誤嚥・転倒転落等、各委員会での取り組みを強化する。

○記録について

記録の二元化、サービス提供の記録についてパソコンを活用したシステムに変更。記録された内容は3ヵ月単位で保護者宛に送付する(入所利用者限定)。

○入所利用と通所利用のサービス内容の差異解消について

授産時代の流れで入所利用者を厚遇してきた感あり。サービス内容は本来共通が原則、入所利用者は介護・医療で優先、通所利用者は生産活動優先でバランスを図る。休日の地元行事への参加について、通所利用者の方も対象とする。

○全国社会就労センター協議会(セルプ協)から退会

旧全国授産施設協議会時代から長年加入してきたが、実態と乖離している現状を鑑み結論する。

○施設整備の取り組み

空調給湯床暖房の老朽化は平成22年度の大規模改修以降の懸案事項。昨年度、設計業者からそれらを網羅した改修計画について提示がある。コンセプトは化石燃料に依存しない整備、経産省(資源エネルギー庁)の補助を申請したが、省エネ率が稀少で採択までに至らず改めて新たな計画を検討中。

平成26年度苦情解決の結果

①職員の接遇に関するもの	0件
②サービスの質・量に関するもの	3件
③事故、被害、損害に関するもの	0件
④事業所運営等に関するもの	0件
⑤契約内容に関するもの	0件
⑥事業所の建物の構造に関するもの	1件
⑦利用者のトラブルに関するもの	1件
⑧その他()	0件
合計	5件

第三分団(消防)

高森町消防団第3分団と本部班の視察が4月26日に行われました。総勢33名の参加があり、第1部は施設案内と入所利用者様の状況説明、第2部は車イスの操作説明を行い災害時の避難誘導についてご理解いただきました。当事業所は、山吹地区と災害時

相互援助協定を締結しており、協定書の第1条には「相互に援助活動を行い、損害を未然に防止あるいは最小限にとどめることを目的とする」とあります。相互の理解を深めるためにも重要な事業となりました。

防火管理者 宮下 伸

座禅(堂守寺)



2月9日(月)に豊丘村にある洞岩寺の住職、五十嵐隆光さんを講師にお招きして、イス座禅と読経を体験しました。この企画は「普段の施設生活で味わえない事を体験する、自分を見つめ直す」といった趣旨で実施しました。

最初に五十嵐住職から、イス座禅の取り組み方や姿勢の説明をうけました。この座禅はイスや車イスに座ったままできる座禅で、身体障害者を持たれた方でも気軽に取り組み得る事でした。またゆっくり体内で重要な働きをする神経伝達物質セロトニンの分泌促進や腹式呼吸をするため体脂肪燃焼にも効果があるとの事でした。次に行われた読経は、曹洞宗の開祖、道元がまとめた修証義(しゅじょうぎ)を住職が読んだあとに復唱しその後説明を受けま

した。
終了後の利用者の皆さんからは「座禅はとても長く感じた。内臓が疲れた」「頭の中がすっきりとした」「五十嵐住職の若さにびっくりした。また実施し欲しい」との感想が聞かれました。お線香の香りが漂う空間で普段とは違う時間が少しでも感じてもらうことができれば嬉しく思います。

最後に五十嵐住職にはお忙しい中來所して頂きありがとうございました。

紙芝居

ボランティアグループ「野に咲く花」の熊谷弘さんをお招きし、紙芝居と歌を楽しみました。

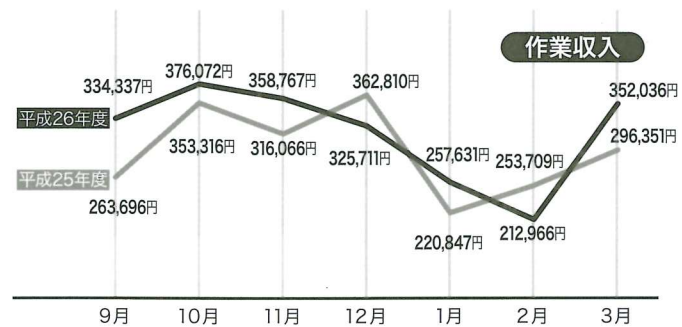
紙芝居は今年、戦後70年ということで熊谷さんが特に力を入れて、満蒙開拓中の子供の話を題材にした「ともちゃんのおへそ」を観賞しました。

また、アコーディオンの生演



奏に合わせて懐かしい歌を歌い、熊谷さんの人柄が感じられる、ほっこりとしたひと時を過ごすことができました。

生産活動



高森荘最大の特徴とも言える生産活動。今日も利用者様は、仕事として真剣に取り組んでいます。しかし、本誌でも幾度となく紹介しているように、高齢化や障害の重度化に伴い、年々厳しい状況になっています。

そんな状況とは裏腹に、各企業は生き残りをかけ、新商品の開発や新事業立ち上げ等を行っており、例年に比べ、高森荘全体の作業量は増加傾向にあります。

しかし、各企業から求められる作業内容の難易度も上がってきており、個々の身体能力に合わせた調整が現在の課題となっています。

利用者様の「仕事があったらいい」という気持ちに応えられるよう努力していきます。

2014年12月～2015年5月行事

紙面の写真・氏名については、利用者、ご家族、職員の同意を得て掲載しております。



感染症対策委員会



一日園長

12/8 感染症対策委員会

12/10 一日園長

龍口地区長 宮下優利 様

12/17 忘年会

12/26 おやす作り

龍口老人クラブ7名



おやす作り



忘年会

1/25 救急救命講習

双葉会交流会 1/28



救急救命講習

節分・交流会 2/4

上平老人クラブ6名



双葉会交流会

3/5 山吹ふれあい広場

参加人数16名



春季火災避難訓練

3/25 春季火災避難訓練



山吹ふれあい広場

新緑が生い茂り、夜には虫たちの声で賑わう季節となりました。吹く風に初夏を感じるこの季節ですが、例年よりも気温が高く、夏日も続いています。体調を崩しやすい頃でもあるので気を付けていきたいものです。

最近の高森荘ではドライブに出かけ、園外の桜やつじを見に来て楽しむ姿が見られます。

また、生産活動に取り組んでいる姿を見て私も負けないように努力していきたいと思えます。これからも利用者の皆様に元気を頂きながら、日々を大切に過ごしていきたいです。

編集後記

新緑が生い茂り、夜には虫たちの声で賑わう季節となりました。吹く風に初夏を感じるこの季節ですが、例年よりも気温が高く、夏日も続いています。体調を崩しやすい頃でもあるので気を付けていきたいものです。



夕焼け
山吹照らす
ちよし

平成27年5月20日(水) 岡村義文

利用者作品

俳句 岡村義文作